

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目次

Preface 巻頭言

「医系科学研究科の教育・研究力強化のために…」

大段 秀樹 1

Greetings ご挨拶

「就任のご挨拶」…………… 奈女良 昭 2

Activities 研究科の活動

「広島大学の新型コロナウイルス研究」…………… 坂口 剛正 3

My Motto 座右の銘

「汝々不撓」…………… 安井 弥 4

「為せば成る」…………… 茶山 一彰 4

Excellent Paper すぐれた論文

「ペルオキシソーム形成不全症から紐解く一次繊維へのコレステロール供給機構」…………… 宮本 達雄 5

Research Frontline 研究最前線

「脳の炎症とうつ病 ～マウスによる精神疾患研究～」…………… 相澤 秀紀 6

「予期せぬ放射線被ばくに対する線量評価法の開発研究」…………… 保田 浩志 7

Air Mail 広大から海外へ留学している若手からの便り

「National Institutes of Health (NIH) 留学便り」…………… 内田 宅郎 8

編集後記…………… 藤田 直人 8

医系科学研究科の教育・研究力強化のために…

大学院医系科学研究科長 大段 秀樹



人類は今、蔓延する新型コロナウイルスと闘っています。ペスト、コレラ、結核、そして新型コロナウイルス——。繰り返し人類を襲い、社会を危機に陥れてきたこれらの疫病は、文明の大きな転換点ともなってきました。今、私たちは新たなパンデミックの経験にあって、次の時代を切り開く知恵と創造が求められています。そんな中、医系科学研究科が、教育・研究力強化のために、現在、注力・構想している事は以下の3項目です。構成員の皆様には、是非、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

【震動物実験棟の機能強化】

本研究科では、難治性疾患や生活習慣病の病因解明・治療や予防法の確立を目指した研究を推進しており、モデル動物開発が活発化しています。ニーズの拡大に適応した規模の動物実験環境を整備するため、老朽化した震動物実験施設の増改築問題は長年の課題でした。自然科学研究支援開発センターと協働した「疾患動物モデルセンター」構想は、本学における令和3年度概算要求のトッププライオリティに選定されましたので、是非、実現することを願っていますし、そのためには関係各所との連携をとって可能な限りの努力をして参ります。本構想の実現により、独自の創業および医療技術シーズを臨床試験へ橋渡しするモデル動物の開発と非臨床試験が両輪となった医薬品開発研究が加速されます。

【研究者間情報共有システムの構築】

昨年に実施した全研究室との意見交換会で、「研究技術・機器とリソース情報の共有化」を求めるとの要望が多くありました。霞キャンパスには100を超える研究室がそれぞれ創造的な研究を展開していますが、研究室間で互いに共有できる技術やリソース情報の検索が可能になれば、研究環境の改善と共同研究の推進に繋がります。この課題に取り組むため、「研究力強化推進ワーキンググループ」を設置し、ニーズに合わせてカスタマイズした「Lab secretary」を作成いたしました。今後、皆さんにご利用いただき、feedbackを受けながらusefulな「研究リソースの情報共有システム」に成長させたいと考えています。

【疾患バイオマテリアル・レポジトリシステム構想】

広島大学病院で診療される難治疾患の生体試料と臨床情報を収集・保管するクリニカルバイオバンクとして「疾患バイオマテリアル・レポジトリシステム」を構想しています。大学病院から提供される臨床情報のデジタルデータと直結した臨床生体試料を、研究科の各研究室をはじめ、様々な施設とグローバルに共有することで、疾患発症メカニズムの解明や、治療・診断法の開発研究が促進可能です。現在、霞地区の各研究室においては、それぞれの研究室がそれぞれの方式で血液、血清、細胞などの生体試料を保存しています。しかし、材料保管の安定性、管理の正確性の観点から、全学的、あるいは研究科単位でバイオバンクとして機能するレポジトリを設置し、そこで厳格な一元管理と迅速な提供が行われなければなりません。

